

カトリック仙台司教区 東日本大震災救援・復興活動ニュースレター

発行人：平賀徹夫 編集：小松史朗
〒980-0014 仙台市青葉区本町1-2-12
カトリック仙台司教区事務局
Tel.022-222-7371 Fax022-222-7378
1) 義援金振替口座：02260-9-2305
名義：カトリック仙台司教区本部事務局
2) 支援金振替口座：00170-5-95979
名義：カリタスジャパン

前回は大阪管区と長崎管区の活動でしたが、今回は東京管区の活動の中からさいたま教区、そして札幌教区の挑戦を報告します。さいたま教区も札幌教区も震災以後、4月には活動を開始していた仙台教区内の復興活動の老舗です。本当にお世話になっています。さいたま教区の谷司教さま！ 札幌教区の菊地司教さま！ 及び上杉神父さま、本当にありがとうございます。

お隣さいたま教区から！

教区本部で出発前のお祈り！



さいたま教区では、3月18日「さいたま教区サポートセンター」を設置し、手始めに「仙台教区サポートセンター」へボランティアチームを派遣することから活動が始まりました。その活動と同時に、地震、津波、原発の三重苦に喘ぐ福島県の隣に

置するさいたま教区では、すぐに、福島県の被災者を教区内にある施設に受け入れるよう呼びかけを始めるとともに、隣接するいわき市の湯本教会をベースに「サポートステーション」を3月23日に立ち上げました。谷司教さまの決断の速さと行動力にはありがたいと同時に、本当に驚かされます。まず、いわき市内を視察

し、すでに活動している聖公会との協力体制について話し合い、当地の司祭チェスワフ神父さまや信徒会長さんの協力を得て、実質的な救援活動が始まりました。活動内容は、避難所の訪問、独居老人宅の訪問、傾聴ボランティア、水などの物資の提供でした。5月15日には、仙台教区司祭・氏家仁神父さまが湯本

さいたまからいざ！出発！



もみの木の建設予定地を祝別！



教会に着任し、活動が本格化しました。さいたま教区で始めた活動は、現在ではいわき教会の信徒たちも巻き込みながら、仮設訪問をしたり、炊きだしなどを行っていますが、この程、いわき市中央台高久にある仮設住宅のすぐ側の土地を借り受け、新

たな「サポートステーション」(名称：もみの木)を建設中です。この「もみの木」の周辺には9棟の仮設が完成し、約1000世帯が入居する予定になっています。その傍ら2階建てのログハウス「もみの木」が完成すれば、ここで傾聴活動、お茶やコーヒーのサービス、こども広場、こども図書館、炊きだし、野外コンサートなどの支援活動が展開できるのではないかと考えています。完成は12月23日の予定です。

いわき市は、福島原発から約37キロ、湯本は約43キロ、小名浜は約50キロ離れています。放射能汚染を心配する人々のことを配慮して、青年たちへのボランティアは「仙台教区サポートセンター」を通じて派遣を行っていますが、福島でのボランティアを希望する青年には、自己責任で行っていただいております。



「もみの木」完成予定図！

北の国から、宮古を救え！

札幌教区は、震災後、すぐに札幌から行きやすく、被災地にある教会としてカトリック宮古教会をベースに、活動を始めました。

札幌教区の上杉昌弘神父を責任者として先発隊が、4月11日から宮古教会で活動を始めました。当初は山



これから出発！いざ！宮古へ！

田町で、瓦礫の片付けや泥だしを中心のボランティアでしたが、5月に入り、宮古教会の信者さんや市民の方をとおして依頼を受けた個人のお宅の清掃など、直接被災された方との接触が増えるようになりました。



田老町での活動！

ボランティアを行うときの名称を、6月から「カリタスジャパン」として、宮古社協に登録し、チームとして活動しています。

ときどき、宮古ベースでは「分かち合いマーケット」を行いました。

第1回目の「分かち合いマーケット」は、4月28日に宮古教会と小百合幼稚園の共催で行われました。9カ所の避難所から約300人が、第2回目が6月4日、この日も約300人のかたが参加してくださいました。第3回は7月24日、約200人が参加。

大きなイベントでしたが「分かち合いマーケット」は、避難所の閉鎖と伴に終了し、新たに仮設住宅を回る「移動カフェ」という傾聴ボランティアを始めました。

第1回目の「移動カフェ」は、7月25日宮古市実田仮設住宅談話室でおこなうことができました。これ以降、「移動カフェ」は喜んで迎えられ、どんどん多くの仮設住宅にひろまっています。その他、コンサ



聖堂内での分かち合いマーケット！

トなども行い、宮古の人々に受け入れられてボランティア活動を続けています。これも、ボランティアとして参加して下さった札幌教区の多くのかたのご協力によるものです。ボランティアをした方々が、北海道に帰り、自ら所属する小教区において、その報告をすることによって、札幌教区の教会が豊かに変わることが何よりうれしい！本当に感謝しております。と上杉神父は語ります。



音楽コンサート！

札幌教区、宮古教会、カトリック小百合幼稚園の支援活動は地域の中で教会が証しをすることに繋がっていますし、3者が一体となって行う活動はこれからの教会の進む道を暗示しているようです。これからの活動に乞うご期待です。